

# 二人の円谷の偉業を後世へ

## 円谷英二ミュージアム (市民交流センターtette内5階)



初代ゴジラスーツが出迎えます

© TOHO CO., LTD.

**「特撮の神様」とも称される円谷英二監督の偉業を顕彰するとともに、次世代に大きな夢を与える施設です。英二監督の68年の歩みや人となりをパネルや映像インタビューで紹介するとともに、特撮に関連する図書などを配架し、英二監督の功績や特撮の魅力を発信します。**



英二監督の生涯を紹介

© TOHO CO., LTD.



東宝撮影所をミニチュアセットで再現

© TOHO CO., LTD.



円谷英二ミュージアム

## 円谷幸吉メモリアルホール (円谷幸吉メモリアルアリーナ内)



幸吉選手や1964年東京オリンピックにまつわる品を展示



1964年東京オリンピックの銅メダル

**「銅メダリスト」の円谷幸吉選手の思い出の数々は、ご家族によって円谷幸吉記念館として長い間公開されてきました。円谷幸吉メモリアルホールは、須賀川市が円谷家の意志を引き継ぎ、幸吉選手の偉業を後世に伝えるために開設しました。**



輝かしい成績の数々



幸吉選手の生涯を紹介



円谷幸吉メモリアルホール



## 特撮の神様 円谷英二

Tsuburaya Eiji 1901~1970

日本の特撮技術の礎を築き「特撮の神様」とも称される円谷英二監督。

若かりし頃より撮影技術の研究に励んだ英二監督は、東宝株式会社を中心とした数々の作品で特殊技術を手掛け「ゴジラの逆襲」(1955年)では「特技監督」を務めました。

1963年には株式会社円谷特技プロダクション(現・株式会社円谷プロダクション)を設立し、その名声を不動のものとなりました。

英二監督の残した思いや熱意は、今でも多くの人々に影響を与えています。

## 栄光の銅メダリスト 円谷幸吉

Tsuburaya Kokichi 1940~1968

1964年に開催された東京オリンピックのマラソン競技で銅メダルを獲得し、当時低迷していた日本陸上競技界の救世主となった円谷幸吉選手。

幸吉選手の偉業を顕彰するため、令和5年4月に「須賀川アリーナ」を「円谷幸吉メモリアルアリーナ」に改称し、毎年10月には幸吉選手の偉業をたたえる「円谷幸吉メモリアルマラソン大会」が開催され、全国各地から多くのランナーが参加します。

近年では、本市出身のランナーが国内を飛び越え世界の舞台でも活躍するなど、幸吉選手のレガシーが今もふるさとの人々に受け継がれています。

